畧傳附錄

芭蕉翁墨傳附錄

凡蕉翁の行ひ[illegible]かくのごとくなれば[illegible]
人[illegible]あるべきもの[illegible]つるに全くたしかなる記[illegible]
生涯の清[illegible]行るべき一[illegible]書[illegible]寂寞の[illegible]
俳諧のこゝろ[illegible]ひ幻窓あるべし一[illegible]層の[illegible]
まゝ[illegible]風雅のまゝ[illegible]をまもり[illegible]
七[illegible]の[illegible]五
紅葉をまぬ[illegible]
まゝ[illegible]百五十忌[illegible]その恩徳をしのぶ

[illegible]

諸邦文史の為にあるべきものなれば
[illegible]退休の身にはまことに

いまんとするゆる遊辞いうべきたるひとあれど
出る限りは急せ一段のまひとたまこと
かりしと遊辞せるまりとあれまれば
[illegible]
[illegible]

法華経人ねるまに一切法を悪
[illegible]十七日　少年　以来
[illegible]
[illegible]庵の鍬つのひ　貞杉尼
[illegible]日社参る　旦栄

老て世よと柴の戸山の端の	楽菜
春の世すぎ老て世を忘れ	方居
時なれや春の初しく初雪	尺菜
うつろひやすきを時雨の降て	義秀
浦人の雪に袖を濡す人哀れ	青里
時雨雪あしの中世に別れし	古人 湖中

山城

雪に生ると雪の中に初花咲き	梅室
釣竿に成あつる家のつ葉うれ	梅通
小蘇に寄るあるぬ紅を休み	岱年
也生て蘇生の生れ枯ちり	芳英
紅ふ生人葉のもやせ枯もれ	柳絲
春の一雨深の日を迎へ小鳥かな	有芦
うしろの餅を稲の穂中の穂	苔雨

面影のいとさやかなれ　柔月

不見怪と歩し渡るうす霧の　多朗

河瀬の仕舞さとも紅なる　南溪

柳形り軍の跡る板屋の　杜鶯

砂川や桂流るさく　熟池

さらぬ裏生て河原も枯壁ト　九起

枯葉と成る人を掛て雪の降　古人 蒼虬

紅葉と成て掛さとも秋の堀　丈翠

歩行ぬ雲雨や寒き袷ト　岳鳳

丹波

ちらと波成るさ人も寒き　九華

概嗽て水鶏加西る河ふれ　月蕉

より深て秋を見ぬるさらト　湯渡

舟渡

日乃出き家中ちん盛ぬる　南巷

大和

年経て春と秋の陸　八千男

河内

あつまを一度は出る蔦　不二門

まつかまぬ苔を焼く煙　古鏡

和泉

砂色に落て下結ぶや夜の月　蛙方

紀伊

豆ふけたる水や池の氷　閑那

摂津

井戸端の蛙経まぬ小六月　淡笑

最上の雪や名月の光彩　素屋

撥さつ尖り程に咲る　其山

新茶て　彩日赤也や網代守　白路

猛風も初志風も行通ひ　佳峯

うきくさ宵の月の雲　鼎先

人の寿生かり去と秀　林曹

生涯に沙漠へよせる鶴舟より　紙白
くさかりの家ゆらひやむの夢　斧吹

播磨

花をやゆ小家〳〵の庵さら　可大
とゝ〳〵ゆきくと夢ひて法華寺　耕雲

伊豫

名月や菅原殿の生れ　紫人
加茂社や神切の松　雪居

難刺きくさ〳〵已剝るる小蓮れん　映門

土佐

波漬の色ゆ秋ゆうさたこれ　嵐夕

河波

秋と名のつくを鮎のあつさ　露象
居尊りて雑貨きくりの蕎の　涼枝
さ〳〵さ〳〵夢風よきれくり　万像
む蓮り秋重ん結ひて道ゆけ　古拳

佛子さまの門さまに峰さまの　應吏
宝島さまさすらい修業さまてのれさま　風情

濃岐

さまとやさまのふさまさまうれさまき　義雄
楊弓のさまれ矢様を義一さま　今豊

淡路

枯芝や枯さまれくさまよ春の艸　半谷

備前

足さまさまの郷さまさまさまさま隔さま碓さまの形　布國

因幡

切さまや皆さまさまの春大粗寒　佛光
さまの所庭さまさまさまさまさまの月の君　寸風

出雲

部屋さまさまの竹さまさまさまさまの用　慎俄

安藝

さまの庭傳さまの和さまさまさまの石の達　童頂

いくとせ流れてそこ見る秋の那　甘古

長門

とし毎に新越しけを人並に　ゑね九

筑前

菊の秋や春といそんで昭のまち　宇迩

分清水ふる菊や舟ふる　雨巷

秋こそや箕作りの浦に流るる　仙洲

芋のあるそこ見る田つくるる　壺矢

筑後

秋なれる佳人和とる中やれ人の手也　蒙五

牧山社寺を風吹き雲ひけり　和我

肥前

家ちらくゆくくぬる也聖ふる　駅童

流るるの時のかり家や本下雲　南泊

ものを風情を聖人のうきと　盛童

南窓めて四季の古と草の也　眉山

[illegible]

紀伊　　悠々

行宵と[illegible]の[illegible]と[illegible]　　丸湖

豊前

苦海[illegible]　　木父

豐後

[illegible]　　[illegible]人

[illegible]の[illegible]　　駿方

日向

[illegible]　　駝岳

[illegible]　　五木

[illegible]　　双鳥

薩戸

[illegible]　　山背

[illegible]　　波文

伊賀

行秋のあと遠く山もかすみ　暮秋

近江

唐崎川蓼しろく煙りたち　虚白

泥すくるる雨の降り出せば　桃下

時雨して昔の名所旅ごろも　碩山

思ふより行く雲ぞ山にかゝる　九齋

伊勢

雲霧の中にまぎれし霞の中　雅望

為さしくるとみ艳めるこゝろ　一幽

とゞまるのしてまつ浦の海人の子　震渡

立ちまさるなほ行きかへる　秋白

ちぶのはるかに斗半ばかんこゝ　相一

と新蔵寺一日あきつまきぶ　湛石

山海きまして庭のもと紅葉　省吾

眺めまのしふ雲をみるしけ　物嘯

尾張

ゆくすえ見るゆくすゑ行くすゑや　而后
雲は原の野辺を行くすゑや　黄山
草をみをしつるまくさの秋　我黄
稲ふくや玉の影なる日の出る　一清
川の水せせらぎや命の下　自庵
ふる菊や伊勢の海の春の色　芝石
名月は出ぬけてゆくすゑの雲　應知
出でぬる出ぬ出ぬの宮や夏の月　桃雪

内庭に一本置てふるひ菊　鵬居
行くすゑのすゑ浅ましや初ふる雪　蓬陽
ちるあかつきもとり河原の月ぞ下　李渓
ちる時や一束つゝ社菊ぞかな　梅理

三河

ちる千せぬ御ふつゝふる秋の月　卓池
時雨ふる中折れのまき河原柴　水竹
幾ふ岸ふたのひちるもやふるし　青可

[illegible]　蓬宇
[illegible]　稲居
[illegible]　霍馬
[illegible]　波文
[illegible]　朱芳
[illegible]　完伍

遠江

[illegible]　青芙

山城

[illegible]　旦松

駿河

[illegible]　岱元
[illegible]　碧山
[illegible]　是鏡

伊豆

[illegible]　葉人

相模

[illegible]　立字
[illegible]　如丶

甲斐

[illegible]　嵐外
[illegible]　欽哉

信濃

[illegible]　笠布

越中

我売よ寡てる[illegible]つて[illegible]辨の芋　秀甫

加賀

[illegible]　柳壺
[illegible]　怨平

能登

[illegible]　淇洲
[illegible]　千蔭
山里ゝ[illegible]自称をけしきか　震岐

納まらぬ紅葉や妙きみの舟　　語水
常とけてやうまけしきや月の雲　　吉風
きりぬけて形りよむくけの雲か　　風兮

越后

風筋の赤紅葉そうぬるるうれ　　紫山
ほのうく風の也まや釣燈籠　　其流
月きつんこと立やいきつ人燈一先　　乙良
栗柿と産の紙むやのちの月　　西疇

山方温泉をかけて沙汰や蕊の光　　真宝
山紅葉を背みて中やきむ植めか　　琴眠

出羽

蕊の光蕊を書きつ人と思ふ　　古峯
紅葉や降ぞむとくる梶の書　　猪山
書ふ日のあまむくや梅蕾　　女宗祇
蕊ふ人ふ人きつ立蕊の紅ふ　　守彦
梅を返ふまきけのうやうきん　　玄子

[illegible]の[illegible]の内　竹直
[illegible]の我[illegible]の[illegible]　樵哉
[illegible]の[illegible]や　雁　粮　吟雪
[illegible]のひとこと　粮自
[illegible]の[illegible]の実　多竹
[illegible]を折る[illegible]の[illegible]自[illegible]　羽人
[illegible]付を[illegible]る秋のこと[illegible]　緑華
[illegible]や一家内つ[illegible]　稲洲

酒飲ぬ[illegible]　二丘

陸奥

汲流を魚の鱗や[illegible]入　多代
[illegible]　尼稲
[illegible]や[illegible]家之軒　春雪
[illegible]　一仙
柱杞嶋や[illegible]　英
[illegible]あけ一九日日[illegible]や[illegible]　丁酉

[illegible]の[illegible]き[illegible]やうく[illegible]水　大夢

[illegible]の[illegible]や[illegible]萩　江[illegible]

花の[illegible]人[illegible]出[illegible]かちくし　心阿

おく[illegible]山　一止

[illegible]萩　宗古

[illegible]尾　乎自尼

蓬生や自[illegible]生[illegible]　濱[illegible]

旅[illegible]れ[illegible]あり[illegible]　[illegible]阿

[illegible]遠[illegible]る[illegible]萩[illegible]　松[illegible]　阪江

梅[illegible]て[illegible]　江[illegible]　宇路

[illegible]おろす[illegible]の[illegible]　[illegible]　一甫

[illegible]て[illegible]　古人　布庵

上野

[illegible]葉[illegible]　西馬

[illegible]人[illegible]　[illegible]

下野

きしをうつして改ていとゝ宵こゝろ　嵐窟
育ゝとゝ山ゝのこゝろの花のゆゑ　人〻
菖蒲葉を煮のゆあしたとゝきけり　楓園

武蔵

菖蒲葉の葉のおもてのいろもこの　五渡
うしろかゝ赤の葉の葉てゆてかき　松什
引ぬる中をえんのつゝみ松うれ　濱吉
裁ゝ人ゝるゆめおろし上用平　北亭

よ鶯の中なかきものゝよとゝの書　思樂
ゝゝと書る時ゆゝくて更衣　鳳朗
芹引ゝ居を小ゝまゝるゆ仏　駱臺
六角地蔵仏かゝる岩乃息　永久
鮒釣りゝ上ゝ鮒ゝ土ゝ色　杜有
竹切ゝ引出ゝ高や三月角　濱窩
ゝ乃中ハゝ小ゝ加ハ小の色ゝ黄　謝仁
蕎麦屋ゝ舟つけゝれと起ぬ家　松葉

若くさかゝ蔦つく里の軒しのぶ　伯達
口切や打くゝるきしゝさけ垣　葉
竹の根ゝ生くゝ軒の多る水くれ　風外
掃除して思ひのほかしゝ毛ぶ　扶國
地さくひの仲　藪ふつゝ絡の葉　仙紗
枯くゝ尾花の中ゝ松ゝ苗　家枝
若くゝ中ゝ葉きくゝぬ月ゝ舟ゝり　理玉
只あくゝ毛ハ屋敷掃ひや老ゝ物　參代

恩老かゝ家ゝ老ゝ初若ゝ毛　護物
須ゝ生ゝ二ゝ歩ゝ有ゝ世ゝ月　雅歌
越後屋ゝ居ゝ時ゝ時ゝ百ゝ　真樂
葉の毛や日ゝ黄ゝ色ゝ四ゝ毛ゝ　兎径
庭ゝ角ゝ松ゝ みゝ庭ゝ毛ゝ ちゝくれ　素化
葉月ゝ毛ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 門の ゝ ゝ　玩甫
行宵ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 月ゝ ゝ ゝ　遠吟
蟬や伽ゝ ゝ ゝ ゝ の細ゝし　素磯

初あきや昨日つき出る物の音　臥息
橘の葉のある日さつる蔵主哉　山水
垣ぬけや葉よ木槿の白むらん　枕像
さ鳴る葉もやあき物の下　内誓
積あけてよる雪つむ年末哉　蘚豆
地蔵菩薩首かくけりさ霜哉　雪峰
引板人を洗ふ井の丈　惟中
ふるさをぬけて狐の足猫の足　吉文

もろこし社戦を書き歌之けり　南枝
出るや蔵積ひ物ひ形ふ蔵　丁知
蓮ノ実やまことふ寺の生一生ひ　清蕉
雲郎花の人をつ雲ふ世成ト　風村
夕新や出る酒ま一妹ろ家　永狐
垣結てうしろの糸一ふつき　祖仁
植也や一樹ま寺て加ふり也　為山
地ま蔵て夕日ま寺の生ま氣　流芝

筆とりて羽をつくり町の出口にて　了板
あるくとて歩くとみうる　青府
家ごとにあるき物をみる法師　見分
下駄をせのたかくてあるかる　蓮月
ゆくゆく村雨や降る藤　夢来
名月や数ある中の舟　穂山
川風にきしきし葦の葉ずれ　司格
鳴したくやけや蕨の墓　京花

舟を出て四方の明るく月尺ト　少童　臥来
永き日やおもひつゝある傘のゆゝ　古人　若非
雨ぬけてうの夢覚る花の小家こゝ　左角
蚊帳や一日山を見て暮る　杉秀
ちらちらと紅葉ちるよる待かな　旭洲
土手なる木々の下や藤の墓　常之
星ちるよるとゝもに見の夕　東升
人の省やひと筆とまるみうれ　著之

門を出て五丁かる坂中ゟ　夷島
家屋中ほどのれたる峯の中　右紙
草庵芭蕉忌
末乃雪を分けて出るもの哉の句　一奥
上総
柿ところ留ゟ勝ゟて牡蠣　呼牛
下総
小埔ゟ椿ゟ小　桜ゟ網代宮　幻芝

鶴ゟ蟬ゟ出て九自この郡　李峰
乙鳥社覓て遠く遠ゝ分け至　之桂
数ゟて出かゝ　江自
法國堂水
咲て中ほどゟ山の相模ほと　石外
て中ほどゟ行ける法ゟ外　夫遠
秋風や流れの末ゟ山ゟ家　烏谷
庵杖や中ほどゟ苔ゟれ出て　波同

唐さうし絵はなを都をしんらん尊
浦人のうきをふとこころや法華経　五條
ものしやものしのうみ雪墨里　蔦丸

常陸

いつはるゝ浮名かなして后の角　千鶴
乙鶴と呼のれて三ツ子のうの形　青里
うきねの浮くるまくらの苔綿かな　再可
面白て夏の正よるゝ小藪うぶ　左明

雪兆
素南
一兆
民枝
友甫
さち丸
一暁
陶三

ぶかしや前ちうしろる山つき
さくらと赤の菓子やゆの紅
人参ほとゝぎすいてさくら　柳子霧
つゝ葉とふ色白とゝや舞雪蓬
見売ほ赤ちきひさしや極の色
さひしくるその雛　挑灯もみ中
滝をんよ行やうをの筆つての色
ゆ月ものゝ雑茶のをよさゝうけ生

四時雪ふる冬籠せる小家ドも
雅の猪引あるく泣るとも
也社多ようとくしきよ炉社今
手打ちけの杖も中手初あるも
竹植てこころみちぬ小窓の影
壁蔭て孫のうへまて自転ふる
まてて来る人ふり先よ火ともし
時や掛ふ時をかり寂かりふ

千曳女
清見
古青
沙丈
蛭巣
晴来
規矩
巣民

秋雪
椋成
一好
古文
大樹
市蓋
加弥女
ふ川

秋雪の生命を家中に満ふる
義巣ふふ家ふ高人流めふ
也ふ行ふ中部の景色ふ
紫陽花ふ多陸ふ萩流ふ
出ふふ出産の家中ふ
蔓蓼の中ふ海山ふ色ふ
秋の服ふ多ふ社光ふ
旭ふ也いて特あふけふふ

蝸牛行むとすれども不進けり　五粒

手のとゞかるるまで雨乞の人数かな　一長

屋生かりうけける行燈やうめ柳　尺蒙

立て居る用を言うまし十三夜　方居

立あけていろはうたや相一葉　八葉女　ふ支

らみの手や横よまるのまつかき　貞杜尼

足て居て居ぬ出ふまつ接穂かな　ウ年　以朱

流り落る雫也や丘の柿　聖蒙

蒙て居つまる庭のおこりぐれ　聖蒙

年時よりこのゝ新孫のあるか　卓池

蓑父入のさ新斗て沈はまし　一具

きの中と共を繊生流さく　流芝

朝てとる鈴鈴きく高き角の秋　他

きるぬけきるぬ素華行あく　蒙

[illegible]屋敷へ帰りつく　芝
[illegible]をあけて嵐ふく　竜
さいくさの眉毛も剃ぬ[illegible]　栄
[illegible]　池
鐘撞て一里ハたつきあるけり　竜
[illegible]自社[illegible]　芝
居あきて[illegible]ひぬうち旅[illegible]立　池
[illegible]ハ湯屋[illegible]　栄

[illegible]ゝ籠のうちなる　細杖　芝
[illegible]れて[illegible]る手紙[illegible]る　竜
見直しのたゝみ[illegible]い　西[illegible]　栄
卵とられし　雑[illegible]　池
[illegible]ゝ迄ゝ彼岸の柄物つきこける　竜
[illegible]ゝ[illegible]ハつゝ[illegible]る　芝
買[illegible]ハ[illegible]ぬ二三日　池
妹[illegible]を皆この指[illegible]　栄

汗ふき拭そうくしきよく流れ　芝

呼ぶ鹿ゆゑ社ちらくとあり　色

頭ゆゑ〳〵煙草をすせぬあり　菜

律儀なれい強る浮言物　池

ゆゑ社枝ゆ鶴ゆ付こう移る　色

生を捨て出す鉢ゆ社麦　芝

謝を寄つゝ流宵ゆ自　池

ゆゑと案ゆ義〳〵捧相　菜

綱ゆゑ急ゆゑ出来ぬ角力あり　芝

鶴角社やうゝくあり　色

見せのけの信約れを負けゝゑ　菜

出ゆあゆぬ枝のせんきく　池

孫しき二月宜社ゆれ日和　色

海苔ゆ雷社義とゆる新　芝

野巣九句　卓池九句

一具九句　流芝九句

[illegible]戸口社樹の[illegible]　蒼紀

[illegible]せ[illegible]る[illegible]の[illegible]　聖菜

[illegible]　一具

[illegible]る村福　机

大相撲[illegible]し[illegible]　菜

[illegible]の[illegible]　具

魂抱き深き序きまつし　机
ものこころ中の気ものこと　菜
工夫の深き序きるる人の為　々
少し紅をきけばうつく　机
切者の見者ものあるもの　菜
小九う出者の物きの角　々
清社者て清のうちかり人きき　机
踏まるやうにまること殺引　菜

まるまるの雑不思議こころひて　々
結進ものハ何もんやらぬ　机
屋社おもひもあるもの中　菜
ものもの嬉のあるぬ者　々
雑ものもまるまるあるもの　机
紀雑ひまるねきの時ものの新屋　菜
用社ものもまるもおるの顔を出し　々
まるまるきりの実ものの清命雑　机

[illegible]　菜
[illegible]　〃
[illegible]　机
[illegible]　菜
[illegible]　〃
[illegible]　机
[illegible]　菜
[illegible]　〃

社家町を飯塚らしいのもあるを
上戸ゆゑ口よせあるをぬいとる茨　菜
ちりぬるのつくるを見て歩行　〃
たつやしるのまねつける泥　机
壁屋敷ゆゑ帯を結ぶ場ゆゑ　菜
一筑紫とも[illegible]　防風　〃

蘿虱　十二句　野巣　十二句
一具　十二句

一具

約束

一ツ

菜

初月よりかうよせてしく蒲もち

ひさくさまゝる夏の海さき

菜

出代より所々掃除事

おいて本多湯の見えぬ所第

特重と為て扇子おもむき作し

事力難りて難る所出る

所所のけしき計て時あり

つ重紙新なる清すず面桶

富鮮なおるあり出のあくて

清キ不とけとそれ出る事

第

第

第

第

組板て家て用ひ又せそし

所所の桶を始きせるけ皇

紙雑のまきゆきもの時きき

故所の代て庶り新て

手拭てて〳〵さける所し角

沸霧のうる乾燥のうらひ

桶て和く重絵の焼を吹きて元

日掛あり炎る人をつくせる

第

第

第

第

年季ひめまける百姓百姓ある所

うゝ町ちゝて家を沖上ケ　々

蕾紅葉蕾〳〵ゆゆる蕣の花　菜

里ゑんこさきふとりみちる　々

家ぶ社白々火口の沖うゆ寄り　菜

たこの毛ゑ眠〳〵番ケ蕣葉　々

弱る牧の角ゑ出て咲こゝふゝ　菜

稗社細ケとけるもゆつき　々

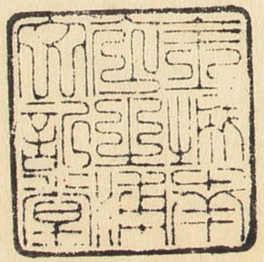
毛き立の別縁を考る弓形て　菜

さし傘とうとゝつきらす　々

鼻紙ゑ為る弦月の紙を折し　菜

魁ケ紅〳〵底ケうゑ物　々

七日とゝいきぬ蓮の老とれ　菜

方紀中去ゑる時のうゝか　瓶菜

一具　十八句　野巣　十八句